

上田市公共交通活性化協議会 会議録

1 協議会名	上田市公共交通活性化協議会
2 日時	令和5年12月25日(月曜日) 13:30~14:30
3 会場	上田市役所 本庁舎5階 大会議室
4 出席者	26名中 19名出席 別紙名簿のとおり
5 会議概要作成年月日	令和5年12月27日

協 議 事 項 等

1 開 会 (事務局 上田市交通政策課 横沢課長)

2 あいさつ (佐藤会長)

3 委員紹介 (名簿配付) (事務局 上田市交通政策課 横沢課長)

4 協議事項

(1) 上田市地域公共交通計画について (事務局 上田市交通政策課 市川補佐)

- ・資料1-1、資料1-2、資料1-3に沿い説明

※質疑意見等 なし

⇒上田市地域公共交通計画 資料1-1、資料1-2、資料1-3 について
原案のとおり承認

(2) 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について (事務局 上田市交通政策課 木角主事)

- ・資料2-1、資料2-2、資料2-3に沿い説明
- ・運行事業者である上田バス(株)、千曲バス(株)より詳細について説明

※質疑意見等 なし

⇒地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について資料2-1、資料2-2、資料2-3
について、原案のとおり承認

5 報告事項

(1) 上田草津線の運休について (事務局 上田市交通政策課 木角主事)

- ・報告資料1-1、報告資料1-2、報告資料1-3に沿い説明
- ・運行事業者である上田バス(株)より詳細について説明

※質疑意見等 なし

6 その他（事務局長 上田市交通政策課 横沢課長）

- ・上田草津線の運休についての報告が行われたほか、県内においても長電バスによる日曜日の運休などが実施されている中で、バス事業者から現在の運転手の充足状況や、今後のバス運行への影響について以下のとおり発言があった。

○上田バス(株) 舟見専務取締役

- ・運転手不足について、当社では今年度運転手の退職が5名という中で、採用は2名であった。数年前までは入社希望者一定数がいたが、現在はなかなかいない。
- ・このような中で有料求人サイトにも採用掲載を始めた。
- ・当社で二種免許を所有している運転手は53名ほど。しかし、この数値には事務方で免許を保有しているものも含まれているため、実際に運転手として稼働しているのは40名ほどとなる。この中でバスの運行を行っている。
- ・2024年問題により規制が厳しくなることで、会社そのものを維持できるか心配している。
- ・現在の運転手平均年齢は56歳。10年後どうになってしまうのか不安。
- ・運転手不足の中で、貸切バス専門の会社は定期路線を運行していないため、赤字になることは滅多にない。
- ・一方、路線バスを運行している会社は、どうしても路線バスが黒字にならない状態。
- ・今までは路線バスの赤字を貸切バスで補填していたが、現在は路線バスの運行を維持するために、貸切の受注がなかなかできない。その結果、赤字が膨らむ一方。
- ・幹線系統路線である菅平高原線においても、国・県から補助金をいただいているが、なかなか補助金満額付かないという中で、上田・菅平間、上田・真田間、上田・真田自治センター入口間の3路線では、補助金をいただいても今年度6,600万円ほどの赤字となる。
- ・その赤字についても、来年以降運転手不足により貸切バス売り上げでの補填がより厳しくなり、経営が厳しい状況が続くこととなる。

○千曲バス(株) 白鳥取締役営業本部長

- ・上田バス(株)と同様に当社でも運転手不足は同様の問題である。
- ・上田市地域公共交通計画の中でも公共交通の安定した供給が重要になってくる。そのため、路線バスには少ない運転手を割いて運行を行っている。
- ・補助金をいただいているが、黒字には至っていない。
- ・コロナ禍において金融機関からの借入を行った。来年からはその返済が始まり、また、利益が出ないなか無利息で3年間借入を実施したが、これからは利息が発生することとなる。
- ・安定した公共交通サービスの提供を目指すのが、会社は自転車操業となっている状態。
- ・2024年問題も重なり、今後上田市とも相談しながら、減便や路線の廃止も視野に入れなければならない。
- ・貸切を稼働させなければ会社を維持していくことが厳しい状況。

○東信観光バス(株) 篠原取締役営業部長

- ・状況は2社と同様である。
- ・当社は全社員20名ほどと規模の大きくない会社である。
- ・路線については100%沿線市町村からの廃止代替、運行委託路線となっており、観光バスも営業している。

- ・コロナ禍の3年間で観光バスの売り上げが落ち込んでいた。委託路線が主なため、委託料等をいただいていたが、やはり観光バスが動かない中では、経営状況が厳しい状況であった。
- ・コロナが5類に移行したことで、利用者数が回復し、何とか山は越えたと認識している。
- ・その一方、観光バスが稼働することで、運転手の不足が顕著となっている。
- ・運転手の募集をかけてもほぼ応募がない。
- ・1年間で退職者が4名、採用は3名であった。しかし、採用者は65歳以上の高齢ドライバーである。
- ・数年は何とかやっていけるが、現役世代の採用が進んでいかなければ、5年・10年先に会社が維持できているかわからない。危機感を抱いている。
- ・地元で広告を出しているが、なかなか応募がない。そこで鹿児島市の新聞社にお声がけをいただいたことをきっかけに、試験的に九州で広告を出したが、全く反応がない。
- ・2024年問題を踏まえ、路線バスにおいてはダイヤの見直しを行わなければならないと考えている。
- ・当社の路線はすべて市町村からの廃止代替・委託路線になっており、上田市でも中仙道線・丸子線が運行されているが、ダイヤ見直しについて具体的な話をさせていただく必要がある。
- ・皆様にはご迷惑をおかけするかと思うが、2024年問題が迫っている中で、対応をしていかなければ会社の維持ができない状態となっている。何卒ご理解をいただきたい。

○ジェイアールバス関東(株) 小林小諸支店長

- ・乗務員不足は以前から続いている。
- ・当社は関東に15店ほど支店があるが、同様に乗務員が不足している。関東のほうが厳しいようだ。
- ・コロナ禍で減便を行ったまま、なかなか元のダイヤに戻せないよう。
- ・高速バス運行が主であることもあり、収入がコロナ前の6割にやっと届いたところである。
- ・運転手不足により、輸送力が上がらない。そのため、収入も上がらないという状況が続いている。
- ・長久保営業所においても高齢化が進んでおり、乗務員の平均年齢が55歳である。10年後が不安である。
- ・一方、新幹線が停車する上田駅から長和町への足という役割は非常に重要だと認識しているため、何とか路線を維持していきたいと考えているが、2024年問題による拘束時間の短縮により乗務員不足がより深刻となっている。運行本数も1日6往復と少ない中で、これ以上便数を減らすことは避けたいと考えているが、利用者の利便性確保を第一優先に上田市・長和町と協議をしていきたい。

○事務局長 上田市交通政策課 横沢課長

- ・当市においても各事業者における運転手不足が非常に深刻な状況である。
- ・市としても市民生活への影響を最小限に抑える中で、今後の方向性をバス事業者と協議していきたいと考えている。
- ・協議の結果、路線バス運行へ影響がある場合には本協議会において協議を行うこととなる。委員の皆様においては会議の出席についてご配慮いただきたい。

7 閉 会 (事務局長 上田市交通政策課 横沢課長)